

## 認知症チームケア推進加算取得への 取り組み

「真のニーズを見つけるために」



特別養護老人ホーム西島寮

処遇向上委員会/認知症ケアチーム

大石巳佳・西野礼子・名坂早苗・熊谷真由美

1

## 特別養護老人ホーム西島寮の紹介

■ 浜松市中央区西島町101番地  
従来型多床室 入所定員80名 併設型短期入所 利用定員20名

令和6年4月より処遇向上委員会「認知症ケア」チームを新設  
認知症チームケア推進加算Ⅱの取得に向けたプロジェクトチーム結成！

メンバー構成/認知症介護実践研修修了者2名（結成時）・  
BPSDケアプログラムアドミニストレーター研修修了者1名・  
施設ケアマネ1名  
※チームケアのメンバーは多職種連携

2

## 算定要件の研修受講・職員研修

- 認知症チームケア推進研修の受講/認知症介護情報ネットワーク「manaable（マナブル）」動画研修
- 認知症介護実践リーダー研修を受講（加算Ⅱの要件）
- 職員会議にて「BPSDとそのケアの基本的考え方」について内部研修を実施。  
職員全員へ、認知症ケア・チームケアを実施することにより、どのような成果が出るのか？理解と重要性を深めた。



3

## 実践対象者を選定

- 認知症の行動・心理症状質問票（BPSD+Q/BPSD25Q）ご利用者のBPSD25Q※を実施  
点数が高く、日常生活自立度Ⅱ以上の方を実践対象の候補  
併せて担当職員にも相談して状況を把握し連携

※この質問票は、25項目の認知症の行動・心理症状（behavioral and psychological symptoms of dementia; BPSD）の状態（この部分のみはBPSD25Q）とせん妄2項目を数値化するものです。BPSDは、認知症の本人や家族・介護者の笑顔ある生活を妨げるため、解決することが必要です。そこで、質問票をチェックして、BPSDの状態を数値化し、ケアに関わる人たちの間で共有することで、適切な対応を行うことにつながります。

（認知症介護情報ネットワークより）

4

## 認知症チームケア推進加算 ワークシート

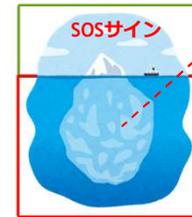
その人らしい暮らしについて聴き取る7項目 チェックリスト

1	どのような暮らしをしたいですか？ 習慣としてきたことで、続けたいことは何ですか？ 個別・具体的な生活習慣、望む暮らし方、個人史
2	あなたがこだわっていることはありますか？ 望む暮らし方、個人史
3	今、どのようなことをしたいですか？ 本人の望み・ニーズの把握
4	生活で難しくなっていること、手伝ってほしいことはどのよう 生活障害：できないこと、できることの把握
5	誰と仲良く暮らしたいですか？ 人的環境（関係性）：「なじみの人間関係」スタッフ 家族との関係性と関わり、友人や社会参加
6	どのようなで暮らしたいですか？ 生活環境：「なじみの居住空間」（居場所、落ち着ける場
7	どのような日課・役割を持ちたいですか？ 役割、日課、生きがい、感謝される機会

5

## 具体的ケア計画の立案

- 具体的なケア計画は、簡潔にまとめる！
- すべての職員へ周知して「ケアを統一する」必要がある  
複雑なことや普段できないような計画はNG  
日常生活の中で、自然にできること、ご本人のニーズを叶えることを模索！



本人の満たされないニーズは水面下に隠れている

この取り組みの大切なポイント

**BPSDを無くす事が目的ではない！ニーズを叶えるために職員全員で「統一したケア」に取り組むことが重要である**

6

## 具体的計画の実行 PDCAサイクル

BPSD25Qの再評価・ケアの振り返り、状態の再評価、計画の見直しの有無、担当者会議録入力

**ACTION**

**PLAN**

対象者20名の計画立案  
ケア計画の職員周知と理解



チームケア

月1回委員会メンバー及び多職種とカンファレンス実施

**CHECK**

**DO**

介護の統一化を図り実践開始して実施した反応の記録を残す

7

## 取り組み事例紹介

- 女性 89歳・介護2・認知症自立度Ⅲa・身寄りがなく身元引受人は成年後見人（弁護士）

A D L：独歩可能、少し呂律不全あるも会話可能。食事の自力摂取可・排泄自立（尿失禁あり）

BPSD/食事の魚やパンをティッシュなどに包んで居室へ持ち帰り、ロッカーや床頭台の中に隠すこと。他の利用者のものをこっそりと隠すことや、他人の眼鏡フレームを曲げて壊してしまうこともあった。

普段の施設での生活

施設の食事後のテーブル拭きや、たたみものなどの手伝いを快く引き受けてくれる。自ら進んで行っている。チェックリストの聞き取りは、「娘に会いたい。兄弟に会いたい。家に帰りたい。今どうしてるか聞きたい。」「今まで働いたことがない。好き勝手にしていた。」などの訴えが聞かれた。物理的に、家族状況は叶えられないが、想いを汲み取ることができる。「食事に不満があるのではなく、精神的に満たされていないのではないか？」と背景要因に気づきました。普段から積極的に施設の手伝いをしているのに、それを話す家族がいない寂しさや、承認欲求が隠れたニーズでは・・・と考えました。

8

## 取り組み事例の具体的な計画

タオル、エプロンたたみ、テーブル拭きをしている時、  
ご本人の顔を見て笑顔でお礼（感謝）を伝える！

しっかり相手の目を見て笑顔で  
「〇〇さん（呼名）、ありがとうございます！」



職員全員へ周知徹底を図った！



9

## 具体的な計画を実行した結果

- まだ、食べ物を居室に隠す行為は完全にはなくなってはいない！  
しかし、**確実に頻度が減っています！**
- 以前の他人のモノへの、いたずら行為は**無くなりました。**
- しかも、今ではお礼のあいさつから発展して、ご利用者自ら、朝の挨拶時、笑顔で職員と、**ハイタッチして「おはよう！」と挨拶を交わす**ようになり、コミュニケーションや信頼関係が増したことが影響しているかもしれません。

10

## 振り返り

今までは、「部屋に持ち帰ると痛んでしまうから」と、**注意しても無くなら**なかつた行動が、**全く関係のないと思っていた**手伝いのお礼のあいさつをしっかりと実施したことにより、症状が軽減されて、より深い信頼関係とコミュニケーションが生まれました！

チームケアにより、職員とご利用者の信頼関係が強固なものになっていること。みんなで対応したことにより、症状に改善がみられたこと。これこそが認知症チームケアであり、介護の仕事としての醍醐味ではないでしょうか。



11

## 加算取得を目的にチームワークが強まった！

不安要素だらけ！で始まった委員会！

職員不足の中、そんな取り組みをする余裕がない！

加算の算定要件が厳しい中、委員会を中心として加算が取れるところまでいけるのか？というプレッシャー！



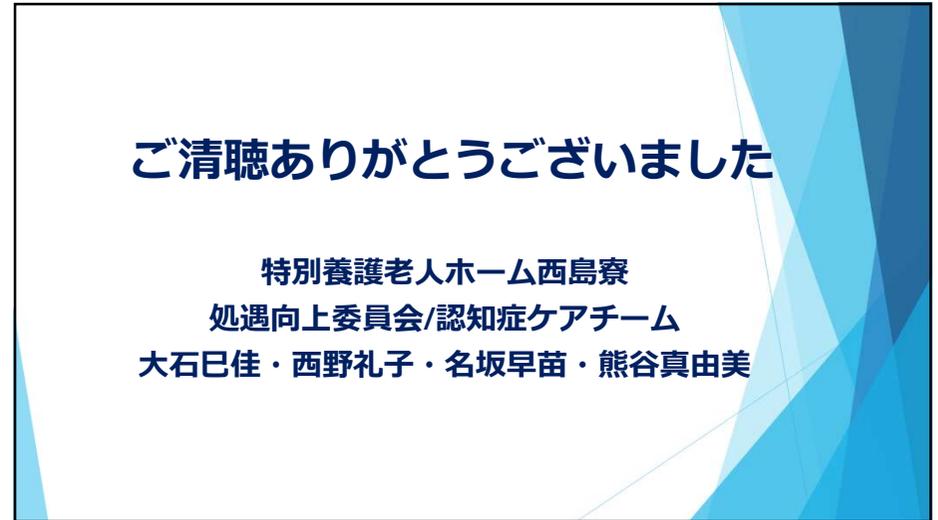
- ・多職種が協力して新しいことに取り組む楽しさを感じられた。
- ・委員会で話し合い、課題が生まれ、それをクリアしていく中で、自然にチームワークも生まれました。

**このチームワークをご利用者のニーズを叶えることに繋げていく**

12



13



14